



ぐんぐんすくすく! 相生っ子!

住所 相生市緑ヶ丘4丁目5-5
 電話 0791-23-5070 FAX 0791-22-7211
 E-mail ikusei-aioi@bz03.plala.or.jp

◆兵庫県青少年非行対策等連絡会議 <2025.4.17> より

兵庫県警生活安全部少年課報告より

1 少年非行の概況(令和6年中)

		令和6年	前年比
刑法犯少年	犯罪少年	1,200人	+163人
	触法少年	680人	+25人
不良行為少年		15,763人	+2,060人

- ・令和6年中の非行少年は、2,343人で、前年に比べ187人増加している。
- ・喫煙や深夜はいかい等で補導された不良行為少年は、前年に比べ2,060人増加している。
 (ちなみに「喫煙」は1,625人、「深夜はいかい」は389人、「飲酒」は52人増加している、また初めて「薬物乱用」で4人補導されている)

2 福祉犯について ※福祉犯とは、児童買春等、少年の心身に有害な影響を与え、少年の福祉を害する犯罪の総称

- ・福祉犯は、検挙件数は338件(前年比+83件)、検挙人数は164人(前年比+10人)いずれも前年に比べて増加している。

<福祉犯被害少年>

	未就学児	小学生	中学生	高校生	その他
令和6年	5人	21人	94人	163人	15人
前年比	+3人	-6人	+27人	+85人	+13人

- ・被害少年は315人で前年より127人増加し、小中高生が被害の中心である。

県民生活部男女青少年課青少年指導班報告より

1 携帯電話の所有率及びフィルタリングの設定状況(令和6年度)

	小1~3	小4~6	中学生	高校生
スマートフォン	28.5%	51.1%	79.8%	98.6%
従来型携帯電話	13.8%	17.8%	11.0%	7.2%
フィルタリングを設定している		39.2%	57.1%	42.9%

返事ができる子は伸びる。

返事は心の向きを表す。

挑もう、学ぼう、伸びていこう。

こう思っている子の返事は早い。

こう思っている子の返事は

気持ちがいい。

こう思っている子の返事は力強い。

返事は心の向きを表す。

できない、不安だ、ぼんなんて…。

こう思っている子の返事は遅い。

こう思っている子の返事は重々しい。

こう思っている子の返事は弱々しい。

返事ができる子は伸びる。

できる、できないを考えることなく。

「はい」と返事をする。

それだけで子どもたちは伸びていく。

返事は自分を縛る「我を捨てる」練習。

小学4年生の男の子が深夜コンビニで万引きをして警察署に連れていかれました。

担当の警察官は一生懸命、子どもの名前や住所や電話番号を聞きますが、この子は一切話しませんでした。

困った警察官から「大変な子がいる。応援に来てくれ」と少年育成指導官の私に連絡がきて、翌朝私は警察署に行きました。

横に座ってゆっくり話を聞くと、その子はようやく自分のことを話してくれるようになりました。

家庭と学校に連絡して、お母さんが迎えに来られました。お母さんが最初に言った言葉は、「もうあの子を育てられない。施設にでもどこにでも入れてくれ！」でした。

お母さんにも事情がありました。

その子は、ほぼ毎日どこかで何かを盗むのです。そのたびにお母さんは、謝罪に行つて弁償するので、近くのお店に買い物に行けなくなりました。お母さんは、わざわざ遠くのお店まで買い物に行かねばなりません

注意をしたり、叱つたり、約束したり、お母さんはとにかくいろんな教育を試みました。でも彼の盗みグセは直りません。だからお母さんは、「もう育てられない」と言ったのです。

お母さんの反応から「あの子を家に帰すことは危険」と判断した私たちは、児童相談所の一時保護所で彼を預かることにしました。

そのことを伝えると、お母さんは書類にサインをしました。そして、子どもの顔を見ることなくそのまま家に帰りました。

それを子どもに伝えるのはとてもつらい仕事です。たとえどんな家庭でも、子どもは「家がいい」「お父さんと一緒にいい」「お母さんと一緒にいい」と言うのです。

そんな子どもたちに、「しばらく家に帰れない」と伝えなければならぬのです。いつも身を引き裂かれる思いになります。

私は彼のところへ行き、「これからのことを、児童相談所の先生や学校の先生、お母さんも含めてみんなと一緒に考えていきたいから、あなたにはしばらく児童相談所の一時保護所に泊まってもらうことにしたよ」と伝えました。

すると彼は目をキラキラさせ、嬉しそうな顔で言いました。

「堀井さん、僕、その一時保護所というところに泊まれるの？」
私は意外だったので、「泊まれるけど、どうして？」聞きまし

すると彼は言いました。

「僕ね、ずっと思ってたんだ。僕はお家に帰らないほうがいいんだよ。僕がお家に帰ったら、大好きなお母さんを怒らせたり悲しませたりしてしまうから。だから僕はお家に帰らないほうがいいんだよ」

彼がしている心配は、自分ではなく、お母さんの心配でした。健全なその姿に私の目から涙がこぼれました。

彼は言いました。
「どうして堀井さんが泣くの？僕は全然大丈夫。だからお母さんに伝えて、『気をつけて帰ってね』って」

最後の最後まで、彼はお母さんの心配をしていました。

私はこの仕事に就くまで、「親の子どもへの愛は無償の愛」だと思っていました。けれど、たくさんの子どもの話や話を聞くうちに「違う」と思うようになりまし

親の子どもへの愛は意外と条件付きです。余裕があつて環境が整っていれば優しい親でいられます。でもそうじゃなかったら、子どもを冷たくあしらう親も結構いるのです。

でも子どもは違います。どんな親でも自分の親が誰よりも一番で、自分の親が喜んでくれ

ることを、笑ってくれることを、安心してくれることを願いながら小さな心で必死に生きています。
「子どもの親への愛こそが無償の愛」だと私は思うようになりました。

(次号につづく)



【ほりい・ちほ】
児童養護施設勤務を経て、福岡県警察本部北九州サポートセンター勤務。延べ2000人の非行少年と向き合う。現在はフリーの立場で子ども相談、講演活動を行う。著書に『非行少年たちの神様』（青灯社）がある。

センターの支援を
ご覧ください。
QRコードから
過去の教育支援
の場をどうぞ



